

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 11「住み続けられるまちづくりを」

～安全でいつまでも住み続けられる持続可能なまちをつくる～

現在、世界の人口の半数、約 35 億人以上の人が都市部で生活しており、商業をはじめ多くの社会・経済・文化発展の中心となっています。人口が減少している日本においても、都市部、特に東京圏全体での人口は増加を続けています。地方から都市部へ移ることで、雇用機会や収入が増え、十分な医療、教育サービスを受け、便利な居住環境で暮らせるようになりますが、人口が集中することにより、インフラ不足や犯罪増加、大気・環境汚染、交通渋滞、災害・台風対策、感染症のパンデミックなど多くの問題も引き起こします。一方、地方では、買い物に行くことが難しい「買い物難民」と言われる一人暮らしの高齢者の増

加や医療体制の不十分さなどの問題を抱えている地域もあります。

地域に住む人が自らまちづくりに参加し、地域に合った居住環境づくり、子どもや女性、高齢者などすべての人に優しいコミュニティづくり、災害に強く助け合える地域づくりなどに加え、医療・公衆衛生の向上など、すべての人が安全で快適に暮らしていける取り組みを進めていくことが求められています。

私たちにできること

- ・まちおこし、まちづくりの計画や運営に参加する
- ・防犯・防災活動など地域のための活動に参加する
- ・地域の見守り・サポート活動などに協力する など

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 12「つくる責任つかう責任」

～資源を守り、持続可能な生産と消費のかたちをつくる～

世界では、限りある資源やエネルギーをたくさん使って多くの製品や食品を生産し、それらを大量に消費して生活しています。現在、私たちは地球1個が作りだしてくれる資源やエネルギーに対して1.5個分のものを消費していて、このペースが続くと2030年には地球が2個必要になるといわれています。このままでは、いつか貴重な資源が枯渇してしまうことはもちろん、廃棄物やその処理による汚染、気候変動など、環境にも重大な影響を及ぼしてしまいます。人にも自然にも優しい経済活動を持続していくためには、再利用できる資源の有効活用や、少ない資源でより多くの良質なものを得られるような生産と消費の仕

組みが求められています。

日本のごみ総排出量は減少傾向にありますが、リサイクル率は約20%と、50%を超えるドイツやオーストリアと比べるとかなり低い状況です。さらに、焼却率は約80%と、世界でトップとなっています。一人ひとりが、ごみや廃棄物などをなるべく出さない、リサイクルを心がけるなど、資源やエネルギーの効率的な利活用を意識して行動に移すことが重要です。

私たちにできること

- ・マイバックやマイボトルなどを持ち歩く
- ・使い捨ては使わずものを大切に長く使う
- ・資源とゴミを分別してリサイクルに取り組む など